

## 要 望 書

東京大学総長選考会議

議長 小宮山 宏 殿

委員 各位

先生におかれましては、次期総長の選考という重責を担われ、ご多忙な日々を送っていらっしゃるものと拝察いたします。

私たちは以前、理事として大学執行部に参加した者であり、退任後も東京大学の発展を願い、その活動に注目してまいりました。その意味でも、今回の次期総長選考には多大の関心を抱いております。

その中で、本年9月16日付で東京大学教員有志から先生宛に提出された質問状、それに対し同9月23日付で先生が出された回答、ならびに同日に東京大学教員有志から再度出された公開質問状を拝見しました。

このやりとりにおいて、第2次候補者を従来よりも少人数としたこと、第1次候補者の氏名が公表されていないこと、第2次候補者の氏名についても取り扱いに留意するよう求められていること等について、その説明が求められています。特に第2次候補者の氏名までもが学内公開のみで取扱注意とされた前例はなく、私たちから見てもこの措置には疑問を禁じ得ません。

先般、自由民主党の総裁選挙が行われましたが、この選挙においても候補者の氏名は「有権者である党員のみ」ではなく、広く社会に公表されました。実質的に一国の首相を選ぶのと一大学の総長を選ぶのでは重みが違うと言われるかもしれませんが、先生ご自身、本年4月28日付の談話で「本学の運営を総理する総長に対しては、学内のみならず、日本、世界から大きな期待が寄せられている」という認識を述べておられます。そうであるならば、「学外の意見を取り入れる環境に対応することはない」という先生のご回答は、この認識と真向から矛盾するものと言わざるをえません。大学にとって極めて重要な総長選考手続きに関して、学内からこのような疑問が表明されている以上、ぜひ真摯かつ明快なご説明をお願いしたいと思っております。

そのうえで、私たちは先生と教員有志とのやりとりの文面だけでは事情がよくわかりませんでしたので、学内の複数の方々にインフォーマルにお尋ねしました。その方々によると、部局から選出された代議員による第1次候補者の選挙において、2位に大差をつけて1位となった方が、第2次候補者に残っていないとのことでした。そして、その理由が学内の教職員にはまったく説明されていないとのことでした。また、第1次候補者としては文系の候補者も女性の候補者もいたにもかかわらず、東京大学が全学を挙げて目指しているはずの「多様性」の確保という観点はほとんど尊重されなかったとも仄聞します。

もちろん、第1次候補者の得票数がそのまま第2次候補者の選考に結びつくものでないことは、私たちも十分に心得ておりますし、選考会議ではおそらく、専攻分野や性別等の「多

様性の確保」以上に重要とされた原則が存在したのでしょうか。だとすれば、その原則とはいったい何だったのでしょか。当然ながら候補者個人に関する議論を公表することはできないと思いますが、選考の透明性を確保する意味でも、今回の議論ではどういう観点が重要とされたのか、その説明責任が選考会議にはあると考えます。説明不十分、納得不十分なままで意向投票に進み、これから6年間総長を務められる方の選考に進んでしまうことは、東京大学の歴史に禍根を残しかねません。そうならないためにも、現在進行中の選考プロセスをいったん停止し、すなわち9月30日に迫っている全学の意向投票をひとまず延期し、十分な調査検証を行い、学内外に対して十分な説明をおこなった上で、誰もが納得のいく形で選考を再開するという、勇気ある判断も必要ではないでしょうか。

先生には文字通り「釈迦に説法」ですが、東京大学憲章の前文には次のように書かれています。「東京大学は、国民と社会から付託された資源を最も有効に活用し、たえず自己革新を行って、世界的水準の教育・研究を実現していくために、大学としての自己決定を重視するとともに、その決定と実践を厳しい社会の評価にさらさなければならない。東京大学は、自らへの評価と批判を願って活動の全容を公開し、広く世界の要請に的確に対応して、自らを変え、また、所与のシステムを変革する発展経路を弛むことなく追求し、世界における学術と知の創造・交流そして発展に貢献する。」

東京大学が「大学としての自己決定を重視」し、「その決定と実践を厳しい社会の評価にさら」すためには、「自らへの評価と批判を願って活動の全容を公開」し、「自らを変え」ていく勇気と謙虚さが必要です。総長選考は、まさにそうした勇気と謙虚さをもって実行されなければなりません。

私たちはすでに東京大学を離れた身ですが、東京大学を愛する気持ちは人後に落ちないつもりです。そしてそれはもちろん、先生も同様であると信じております。まことに僭越とは存じながら、以上の要望を述べさせていただく所以です。

2020年9月25日

元東京大学理事有志

大和 裕幸（幹事）

石井洋二郎 江川 雅子

清水 孝雄 南風原朝和

長谷川寿一 古谷 研

保立 和夫 松本洋一郎

武藤 芳照